ISSN 1340-2285

# 自然誌だより 冬

Natural history

三重自然誌の会情報誌 95号　　2013年 3月

## 吉兆か？　蓑亀発見！

2012年７月20日，伊勢市勢田町を流れる勢田川の支流で，甲羅の下半分に緑藻の生えたクサガメを見つけました(写真１)．現場は，川幅が３ｍ程度で水深は数十cm．大雨でも降らない限り，流れはいつもゆるやかです．両岸はコンクリート固められているものの，いたるところに堆砂地があり，水生植物も比較的豊富です（写真２）．

さて，このクサガメのように甲羅に緑藻の生えたカメは，古来，日本では「蓑亀（みのがめ)」と呼ばれ，長寿を象徴する縁起のよいものとして珍重されてきたそうです．特に甲羅の下半分に緑藻が生え，尾のように見えるものが喜ばれたとのこと．写真の写りが悪くて（恐縮です）確認しにくいかもしれませんが，この個体は「もうちょっとでそうなることが期待できる『惜しい』カメ」でした．

なお，蓑亀を珍重する考えは中国から伝わったそうで，かの国では人工的に緑藻を着生させて「蓑亀を作りだす指南書」さえ発行されているそうです．飼育個体なら案外簡単にできそうですもんね．

その後，不思議なことにこのカメには再会できずにいます．もっと不思議（残念）なことには，取り立てて幸せは訪れてきません．

写真２　発見地点のようす

写真１　甲羅に緑藻の生えた「蓑クサガメ」

〈佐野　明：津市河辺町〉

# ダイセンミツバツツジらしきものと県内のミツバツツジ類

市　川　正　人

春の山を彩るツツジ科ツツジ属のミツバツツジ類は全国的に地域性があり，多くの種類が認められています．その内のひとつダイセンミツバツツジらしきものの生育を県内２か所(①2011年５月,桑名市多度町の多度山,②2012年５月,松阪市飯高町の木梶山や高見山中腹)で認めましたので紹介します．

この種は中国地方・四国を中心に分布し，愛知県や長野県にも生育が確認されていますが，三重県内でもそれらしきものにやっと出会うことができました．本種の特徴が変種のユキグニミツバツツジと酷似し，また両者とも山地性のため混同されている可能性もあり，上記２地点以外の地域でも分布している可能性は十分にあります．両者の最も大きな相違点はユキグニミツバツツジの葉柄には毛が無いが，ダイセンミツバツツジには毛（成長に伴い白色から褐色へ変化）が密生していることです．花が1個で葉裏主脈に毛が多い特徴は両者ともに共通しています．毛のようすはトウゴクミツバツツジと似ていますが，雌しべ下部に生える腺毛や枝先につく花の個数に違いがあります（トウゴクミツバツツジの花は１～３個で花柱の下半分に腺毛がある)．

なお，ダイセンミツバツツジについては，故･安井直康氏の野帳に県内での分布が４か所記されていますが，その内容にある生育環境や場所，標本記録，当方の現地踏査等から別種の可能性が大きいと考えられます．もちろん安井氏の記録当時はユキグニミツバツツジ（サイゴクミツバツツジとしていた）やアラゲコバノミツバツツジ（コバノミツバツツジの品種）も分類されていない約50年前ですから断定はできません．ちなみに，東京大学に送られた標本はコバノミツバツツジと同定されています．

写真１　コバノミツバツツジ

ミツバツツジ類の開花時期は種によって多少異なりますが，一般的には３月下旬から６月です．また，種によって開花時期が葉の展開と同時であったり，前後だったりします．枝先につく花の数（１～３個）や色，雄しべの数などの形態の違い，子房に生える毛や腺毛，腺の有無や多少，果実や葉の形態などで同定をします．県内のミツバツツジ類には上記の種以外にコバノミツバツツジ，トウゴクミツバツツジ，トサノミツバツツジ，アワノミツバツツジ，ジングウツツジ，キヨスミミツバツツジ，オンツツジ，ムラサキオンツツジ，またそれらを親とする多様な雑種も生育しています．鈴鹿市の伊奈富神社や津市の偕楽公園では，通称ムラサキツツジと呼ばれているコバノミツバツツジの品種にあたるアラゲコバノミツバツツジが多く植栽され，一部コバノミツバツツジが混在しています．ミツバツツジ類の代表種のミツバツツジは分布上県内には生育しませんが，菰野町の植木屋さんで見かけました．出所を尋ねると，やはり分布域相当の静岡県からやって来たとのことでした．

写真２　トウゴクミツバツツジ

なお，アラゲコバノミツバツツジや雑種については宮崎市の南谷忠志氏のご指導，安井氏の標本記録やミツバツツジ類分類の歴史的経緯については奈良市の瀬戸剛氏のご助言を頂きました．

〈いちかわ　まさと：四日市市堀木１－４－５－606〉

# ツバメが食べるムシヒキアブ

篠木　善重・締次　美穂

シオヤアブ *Promachus yesonicus*（双翅目：ムシヒキアブ科）は日本全国に分布する普通種である．三重県内においても，ナミマガリケムシヒキほどではないが，海岸，平地，山地を問わず生息しており，県内各地の生物相の調査報告書に比較的記録されることが多い．

本種のオス（写真１）は尾端に白い毛束を持っている．他種に無いこの特徴さえ確認できればオスの同定は容易である．ムシヒキアブの中でも大型の本種は，コガネムシ類にも飛びついて口吻を突き刺して体液を吸う．こんな本種をもし素手でつかんだとしたら，鋭い口吻が突き刺さって激痛が走ることは言うまでもない．

著者の一人締次は，自宅玄関でツバメの巣を観察中に，親ツバメが運んできた本種オスが雛に食べられるところを確認した（写真２）．雛の口には少々大きすぎるエサかと思えるが，コガネムシであれ，ハチであれ，トンボであれ，ハエであろうと素早く飛びついて捕らえてしまう本種であっても，ツバメの飛ぶ速さと嘴には勝てなかったようだ．なお，このツバメの巣には本種と同じムシヒキアブ科のトラフムシヒキもエサとして運び込まれたが，それについては別途報告を予定している．

県内各地で採集している本種の採集データは次のとおり．

採集標本

シオヤアブ *Promachus yesonicus*：三重郡川越町高松海岸,1♀,6.Ⅶ,2010；三重郡菰野町千草,1♂1♀,30.Ⅶ,2011；三重郡菰野町八風渓谷,1♂,27.Ⅶ,2011； 四日市市楠町北五味塚吉崎海岸,1♀,4.Ⅶ,2010；亀山市安坂山町,1♀,19.Ⅷ,2012；亀山市関町坂下鈴鹿峠,1♂,10.Ⅷ,2012；亀山市関町沓掛鈴鹿峠,1♂,30.Ⅷ, 2012；津市河芸町中別保,1♂,27.Ⅷ,2003,1♀,30.Ⅷ,2010；津市河芸町赤部,1♂,16.Ⅶ,2010；河芸町一色豊津海岸,1♀,4.Ⅵ,2010；津市白塚町白塚海岸,2♀,20.Ⅶ,2010；津市栗真町屋町町屋浦,1♂1♀,4.Ⅵ,2010； 津市大里川北町,1♀,4.Ⅶ,2011；津市産品,1♀,4.Ⅷ,2010；津市上浜町県博建設予定地,1♀,24.Ⅵ, 2010；松阪市松名瀬町松名瀬海岸,1♀, 8.Ⅶ, 2011；鳥羽市答志町答志島,1♂,12.Ⅶ,2011；南牟婁郡御浜町阿田和七里御浜,1♂,2.Ⅷ,1011；南牟婁郡御浜町下市木七里御浜,1♂,3.Ⅷ,2011.

これら23頭の標本はすべて篠木採集．三重県立博物館に寄贈する予定である．

文献

田川勇治．2008．ムシヒキアブ科．新訂原色昆虫大図鑑Ⅲ，p.328-333，北隆館．

写真１　シオヤアブ♂.2008.6.11津市河芸町豊津海岸（篠木撮影）

写真２　シオヤアブ♂を食べるツバメの雛.2012.7.7津市河芸町上野（締次撮影）

〈しのぎ　よししげ：津市河芸町中別保2230-１〉
〈しめつぐ　みほ：津市河芸町上野560-14〉

# こちらは何系？～タイプいろいろ！イボキサゴの模様～

中　野　　環

30年ほど前には，“しょうゆ顔”，“ソース顔”，最近では“草食系男子”，“肉食系女子”など，外見の上の特徴や行動から，人をタイプ分けすることが時々ブームになります．野生生物についてもタイプ分けを行い，たとえ同種であっても別名をつけることは少なくありません．

三重県立博物館が所蔵する金丸コレクションを調査中に(許可書番号：三博第７－29号)，イボキサゴ *Umbonium moniliferum*（Lamarck，1822）について金丸は複数のタイプに分け，それぞれに和名を与えていたことがわかりましたので紹介します．

複数の和名を与えられた貝は40個体あり，阿部茂によりキサゴ *Umbonium costatum*（Kiener）としてまとめられました（標本番号：Sh009279）．ラベルには伊勢香良洲（伊勢辛洲，加良洲）と記載されていますが，採集日については不明です．現在では，イボキサゴとキサゴ *Umbonium costatum*（Valenciennes，1838）は明瞭に別種とされていますが，これらの区別については，日本の貝類学の基礎を築いた黒田徳米，吉良哲明らをも悩まし，同種であると考えられていた時期もあります．阿部も金丸標本にあるラベルをみて“キサゴ”と同定したのではないかと想像します．

40個体の貝は８袋に分けられ，それぞれ個別のラベルが入っていました．“せたしじみ変化(紫貝)”のラベルがついていた１個体は，後述する“コモンキサゴ”と“トラフキサゴ”の中間的な特徴を示す個体です．和名の与え方もさることながら，ラベルの紙質やインクなども異なることから，他種のラベルが紛れ込んだものと思います．金丸は，イボキサゴをおそらく８つのタイプに分け，“コモンキサゴ”，“ヘソアカキサゴ”，“オトメキサゴ”，“サラサキサゴ”，“トラフキサゴ”，“ホロヨイキサゴ”，

写真１　コモンキサゴ

写真２　ヘソアカキサゴ

写真３　オトメキサゴ

写真４　サラサキサゴ

写真５　トラフキサゴ

写真６　ホロヨイキサゴ

写真７　アケボノキサゴ

写真８　セタシジミ

写真９　三重県立博物館標本

“アケボノキサゴⅠの少なくとも７つ和名を与えていました．

個々のラベルが附された袋には，他のタイプと思われる個体が混在しているため，金丸がどのような特徴をもとにタイプ分けしたかは想像の域を超えませんが，あえて，それぞれのタイプの特徴をあげるとすると，以下のようになるのかなと思います．

① コモンキサゴ　：殻一面に小さな紋があり，殻上面は灰色，下面のへその部分が白色になるタイプ．
② ヘソアカキサゴ：殻一面に小さな紋があり．殻上面は灰色，下面のへその部分が朱色になるタイプ．
③ オトメキサゴ　：殻の下面の周縁に近い部分が朱色になるタイプ．
④ サラサキサゴ　：殻は朱色で，やや荒い白色網目模様があるタイプ
⑤ トラフキサゴ　：殻は灰色で，黄色の殻皮のため虎斑模様となるタイプ．
⑥ ホロヨイキサゴ：殻頂付近や縫合の部分が朱色になるタイプ．
⑦ アケボノキサゴ：殻が黄色味を帯びるタイプ．

〈なかの　たまき：度会町大野木1711-１〉

## わが家で見つけたカナヘビのこども

小　川　隆　之

どこの家でもそうかもしれませんが，団地の中にあるわが家の庭にも以前からトカゲ（ニホントカゲ）とカナヘビ（ニホンカナヘビ）がよく姿を現します．私にとってはトカゲの方はあの青みがかってギラギラとした体がどうも好きになれず，捕まえてみようとはあまり思わないのですが，カナヘビのくすんだ茶色いからだには抵抗がなく，よく捕まえてみたりします．動きもトカゲの方がすばしっこくて，なかなかな捕まりませんが，カナヘビはトカゲより鈍くさく，すぐ捕まえることができます．捕まえてみると盛んに噛もうとしたりすることもありますが，噛まれても痛くはありません．比較的おとなしくて，手の中でじっとしてくれていたりもします．じっくり顔をながめてみるとなかなか愛嬌があって，ペットとして飼ってみたくもなりますが，庭の落ち葉の下にたくさんいるダンゴムシなど餌にしているようですし，いつでも姿を現してくれますから，わが家のペットのようなものです．それで，捕まえたあとはいつもすぐに放してやっています．秋になり涼しくなってくると，体を暖めるためか，日差しの当たった庭石の上や，軒下の犬走りにじっとしているところをよく見かけます．捕まえ損なうと生け垣の中や石垣のすきまに潜り込んで姿を消してしまいます．どこかにねぐらのようなところがあるように思いますが，見つけることができません．また，２匹が交尾のような行動をしているところを見かけたこともありますが，１㎝くらいあるという卵は，まだ見たことがありません．

ところで，このニホンカナヘビ，日本固有種とのことですが，この辺ではどこにでもいて絶滅危惧とは無縁のような気がします．しかし，東京都では，ニホントカゲとともに絶滅危惧種や準絶滅危惧種にリストアップされています．これらのトカゲが好む日当たりの良い草原が著しく減少していることが理由としてあげられています．その他，千葉県などでも保護上重要な生物としてリストアップされており，トカゲにとって都会は住みにくい所のようです．

さて，写真は一昨年の 11 月中旬に庭で見つけたカナヘビのこどもです．家の軒下でひなたぼっこをしているところ捕まえたものです．たいへんおとなしくて私の手のひらの上でじっとしてくれていました．動物のこどもはどんなものでもかわいらしいのですが，カナヘビのこどもでもやっぱりかわいらしいですね．しばらく写真を撮ったり，ながめたりしたあと放してやりました．カナヘビは１年で成体になるとのことです．写真から１年半がたちましたから，大きくなってわが家に今でもいてくれていることを願っています．

〈おがわ　たかゆき　津市一志町高野160-691〉

# はえ縄にかかったオオサンショウウオ

清　水　善　吉

2012年８月22日に，名張市赤目にある日本サンショウウオセンターから電話があり，針を飲み込んだオオサンショウウオが保護されたがどうしたらよいかとの相談を受けました．(女性に)頼られたらイヤと言えない性分ですので，とくによいアイデアがあるわけではありませんでしたが，とりあえず明日見に行きますと伝えてしまいました．

翌日，赤目に向かって名張市内を走っているときに釣具屋が目につき，サカナが飲み込んだ針を外す道具があると聞いたことを思い出したので，購入していくことにしました．いろいろなタイプがあり，どれが適当かよくわかりませんでしたが，一番高価（1500円くらい）なのにしました．

センターに到着して問題のオオサンショウウオをみると，口の端からワイヤーが伸びてその先に１ｍほどの太いテグスがついています(写真１)．飼育員の江川紫さんにお聞きしたところでは，同市安部田の阿清水川でスッポンを捕獲するためにはえ縄を仕掛けた方が，オオサンショウウオがかかっているのに驚いてセンターに電話をしてきたそうです．オオサンショウウオにとっては災難ですが，そのまま川に放されなかったのは不幸中の幸いです．

オオサンショウウオの口に棒を噛ませて奥を覗くと針が見えましたので，道具を使えば簡単にとれると思えましたが，慣れないうえに暴れるためうまくいかず，最後は体を押さえて手をのどの奥に入れて直接針を摘んで抜きました．数日飼育をしてようすを観察していただき，とくに問題はありませんでしたので元の場所に放してもらいました．

さて，このオオサンショウウオですが，個体識別用のマイクロチップが装着されており，その番号（968000004611349)から，2011年８月22日に私がほぼ同じ地点で捕獲した雄であることが判明しました．当時の体重は4600ｇ・全長は920㎜したが，今回はそれぞれ3850ｇ・880㎜でしたので，１年で体重は750ｇ，全長は40㎜減っていることになります．けっこうな減り具合ですので，この川はオオサンショウウオの生息環境としては今ひとつなのかもしれません．このようなことがわかるのもマイクロチップで個体登録ができるおかげで，ひとつ千円もするのが難点ですが，大変便利です．三重県内のオオサンショウウオは，約２千個体が登録されていますので，調査を継続していくと寿命や移動など多くのことがわかってくると思われます．

当面は私も調査を続けていきますが，オオサンショウウオは人よりも長生きすると言われていますので，私の死後もオオサンショウウオを追いかける人が出てくることを願っています．

写真１　針を飲み込んだオオサンショウウオ（江川さん撮影）

写真２　道具を使って外しているところ（江川さん撮影）

〈しみず　ぜんきち：松阪市日丘町1386-17〉

## 出てこい!! トノサマガエル・イモリ・イシガメ

トノサマガエルやアカハライモリ，ニホンイシガメなどは水辺の代表的な生きもので，誰もが知っている種類です．ところが，昨年（2012年）に発表された国のレッドデータリストでこれらの動物が絶滅危惧種として掲載されました．2000年にメダカが絶滅危惧種として発表されたときのような騒動にはさすがになりませんが，カエルの代表種トノサマガエルまでが絶滅のおそれがあるというのですから，驚きです．

三重県の2005年レッドリストではこれら３種は掲載されていませんが，現在，見直しの作業を行っており，国のリストに入っているわけですから，まったく無視するわけにもいきません．こられの動物についての情報収集は三重自然誌の会が委託を受けて取り組んでおり，会員の皆様からの情報提供もぜひお願いしたいと思います．

これら３種をみかけたら写真におさめて，日時と場所をお知らせ下さい．当会のＨＰに記録フォームを用意しておりますので，そちらをご利用いただくか，郵送の場合は写真と日時・場所（できるだけ詳しく）を明記して事務局までお送り願います．ご協力をお願いいたします．

WONTED!

トノサマガエル♂

トノサマガエル♀

アカハライモリ

ニホンイシガメ

〈清水善吉：事務局〉

## 一志町波瀬で再びハクビシン

ハクビシンは東南アジア原産の外来種で，雑食であるが果実を好むことから果樹栽培への被害が懸念されています．県内では，北はいなべ市から南は尾鷲市にかけてぽつぽつと生息が報告されており(聞き取り情報は熊野市にもあり)，津市一志町波瀬地内での轢死体記録を本誌84号（2010年）で報告しました．今回，再び同地内でハクビシンの轢死体を確認したので報告します．なお，このように連続した轢死体の発見状況からみて，本種が定着しているのはほぼ間違いないと思われます．

写真１　ハクビシン

2012年10月11日，津市一志町波瀬地内，県道580号線（写真１）

〈清水善吉：松阪市日丘町 1386－17〉

## Book つし自然ガイドブック ～知ろう・歩こう・津市の自然～

三重自然誌の会編集　Ａ４版　295頁(オールカラー)　2013年３月　津市発行　1000円

当会が津市の委託を受け，会員40人で分担執筆した本です．津市というと官庁街のイメージがつきまといますが，県内で最も広い自治体であり，高見や室生，布引などの山地，大阪湾と伊勢湾に流れる川，長い海岸線や広い水田や里山など，多様な自然環境の町でもあります．その大地の成り立ちや生息する動植物について紹介していますが，ページ数もさることながら，ガイドブックのイメージを超えた内容の本となっています．構成は３章からなり，第１章「津市の自然を知ろう」では津市の成り立と生物分類群別の概要，環境別の生き物たちの姿を，第２章「津市の自然を歩こう」では観察に適した自然路や鎮守の森，探鳥地，化石探訪などをマップと豊富な写真で紹介し，第３章「津市の自然を守ろう」では天然記念物や希少生物，外来種等について解説しています．役所がつくる本にありがちなどこかの本の引き写しではなく，各執筆者が自ら足を運んで調べた内容ですから読み物としてはもちろん，二千点近い写真を掲載していますので見るだけでも楽しめます．また，実際に野外で自然を観察するときにも利用できます．この本が千円という値段ですから，納税者である津市民の皆さんには感謝したいと思います．入手ご希望の方は津市環境保全課（059-229-3259）へ問い合わせてください．

## 写真展 出版一周年記念 小さな生き物たち ～図鑑「伊賀盆地のトンボ」

会員・浅名正昌さんの写真展です．ぜひ足をお運び下さい．

**会期**　３月30日(土)～４月７日(日)　10時～17時

**会場**　うえせん白鳳プラザ（伊賀市上野東町）

## 事務局から

**○会費納入のお願い**

本会会費（個人1500円，家族2000円）は前納制になっております．お近くの郵便局から2013年会費をお振り込み下さい．

**○会報・会誌の原稿募集**

会報「自然誌だより春号」は６月発行予定です．観察記録や会への要望，自然保護についてなど，ふるってご投稿ください．また，会誌「三重自然誌13号」は現在編集中で夏頃に発行予定です．会誌14号も続けて発行を計画しておりますので，未発表のデータ等がありましたらこの機会にご投稿ください．

### 編集後記

４年越しの事業であった津市の自然ガイドブックづくりが終わりました．40 人の方に執筆していただき，とりまとめは大変でしたが，おかげで一応満足できる本になりましたし，各執筆者もこの経験がこれからの活動に生かされていくのではと期待しております（善）．


### 自然誌だより95号

発 行 日　2013年３月30日
事 務 局　〒515-0835 松阪市日丘町1386－17
清水善吉方　三重自然誌の会
http://www.zb.ztv.ne.jp/mie-shizenshi

発 行 者　三重自然誌の会
郵便振替口座　00800-5-17842　三重自然誌の会
年 会 費　1,500円（個人）/2,000円（家族）
e-mail:mie-shizenshi@zb.ztv.ne.jp